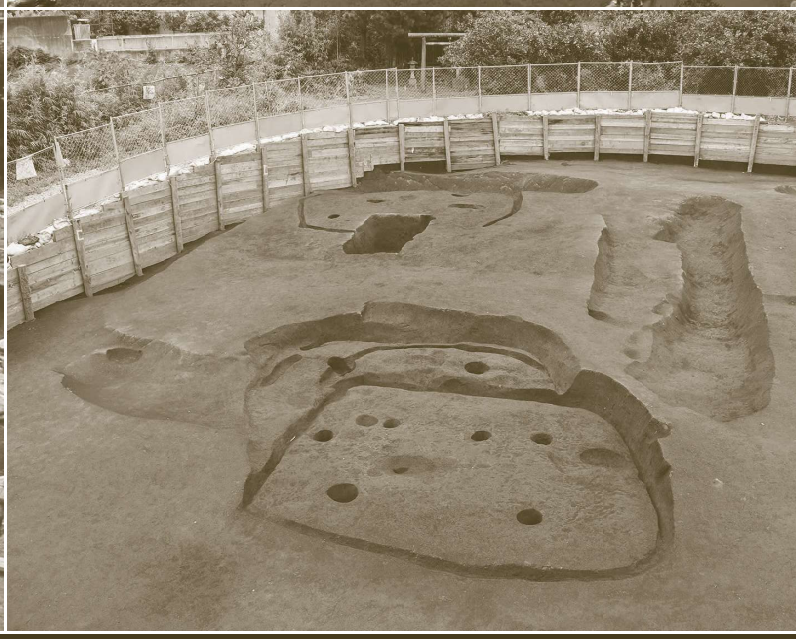
ISSN 2189-7883

神奈川を掘る Ⅴ

玉川文化財研究所 研究論集 2024
戸田哲也 追悼号



神奈川を掘る◇Ⅴ

玉川文化財研究所 研究論集 2024
戸田哲也 追悼号

表紙写真　　上段左－本部台遺跡第３次調査（東京都町田市）
　　母校である玉川学園内の縄文時代遺跡で説明する戸田哲也
上段右－船久保遺跡第５次調査 旧石器時代陥し穴状土坑列
下段左－宿根西遺跡第Ⅱ地点 竪穴住居址内地点貝層調査風景
下段右－久野山神下遺跡第Ⅸ地点第２次調査・久野多古境遺跡第Ⅹ地点
　　弥生時代竪穴住居址と方形周溝墓

裏表紙写真　上段左－原之宿遺跡第Ⅰ地点 古墳時代後期～奈良・平安時代遺構群
上段右－大久保弥六郎邸跡第Ⅵ地点 １号石積水路（戦国時代）
下　段－北仲通一丁目遺跡 明治～大正期遺構全景

※表紙の上段右・下段右、裏表紙の下段、巻頭カラー①・③・⑥の写真は、神奈川県教育委員会提供。

①横須賀市 船久保遺跡第５次調査（旧石器時代・縄文時代～近世　2017～2018年調査）　表紙上段右の遺跡

船久保遺跡第５次調査 陥し穴状土坑全景

Ｐ42号陥し穴状土坑

遺跡概要

太平洋に張り出す三浦半島の中央部西側に位置し、旧石器時代の文化層は相模野B4層下部からB1層にかけて６時期が確認された。特に第Ⅲ文化層からは長方形の陥し穴、第Ⅳ文化層からは円形の陥し穴列が発見され、時期と形態の異なる旧石器時代の遺構群が確認された。

陥し穴状土坑土層断面調査風景

②横浜市緑区 宿根西遺跡（縄文時代・弥生～奈良・平安時代・中近世　1994～1995年調査）表紙下段左の遺跡

宿根西遺跡第Ⅰ地区全景

第Ⅱ地区Ｊ－12号住居址

遺跡概要

鶴見川中流域右岸の河岸段丘上に位置し、縄文時代中期中葉の住居址15軒が検出された。第Ⅱ地区の勝坂Ⅲ式期に属すＪ－12号住居址は、覆土中にヤマトシジミを主体とする地点貝塚が形成され、床面近くに浅鉢が伏せられていた。本遺跡の東側に隣接する宿根北、宿根東、宿根南遺跡においても、同時期の住居址が調査されている。また、古墳時代後期の居住域も検出されている。

第Ⅱ地区Ｊ－12号住居址内地点貝層

③小田原市 久野山神下遺跡第Ⅸ地点第２次調査・久野多古境遺跡第Ⅹ地点

（縄文時代・弥生～奈良・平安時代・近世　2021年調査）　表紙下段右の遺跡

久野山神下遺跡第Ⅸ地点第２次調査・久野多古境遺跡第Ⅹ地点 弥生時代遺構全景

Ｙ４・５号住居址

Ｙ１・２号方形周溝墓

遺跡概要

足柄平野の西縁に延びる久野諏訪ノ原丘陵の東端部に位置し、古くから弥生時代中期後半の遺跡として知られてきた。近年では№98遺跡として各地点で方形周溝墓の存在が明らかとなり、大規模な墓域の存在が注視されてきた。調査地点でも当該期の竪穴住居址と方形周溝墓が発見され、両者の関係より居住域から墓域への転換が明らかとなった。

④伊勢原市 原之宿遺跡（縄文時代・古墳～奈良・平安時代・中近世　1998年調査）裏表紙上段左の遺跡

原之宿遺跡第Ⅰ地区全景

12号住居址

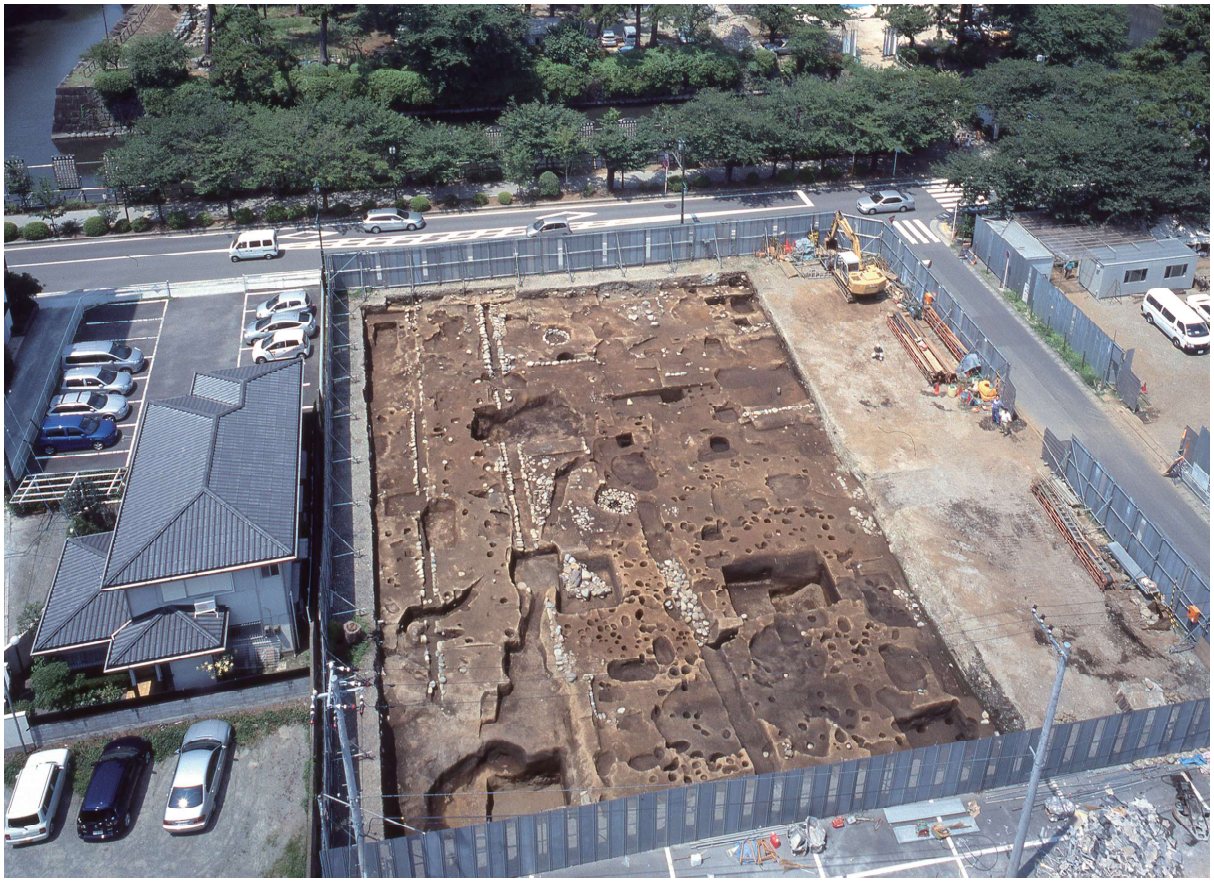
遺跡概要

伊勢原台地の南東縁辺部付近に位置する遺跡で、６～９世紀にかかる時期の竪穴住居址と掘立柱建物址からなる集落が検出された。特に７世紀末以降に出現した複数棟からなる大形の掘立柱建物址群は、令制下の沼目郷の中心地域を構成する遺跡として注目された。近年では周辺地域においても当該期の大規模集落が調査されている。

１～３・20号掘立柱建物址

⑤小田原市 杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点・大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点

（小田原北条時代・江戸時代　2005～2007年調査）　裏表紙上段右の遺跡（2012～2013年調査）



大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点 戦国時代の城下町関連遺構

大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点
１号石積側溝付き砂利敷道路（戦国時代）

遺跡概要

現在の小田原三の丸ホールに位置する。戦国時代小田原北条期（16世紀代）の城下町関連の遺構群と江戸時代小田原藩政期（17～19世紀後半）の重臣屋敷関連遺構群が重層的に検出された。特筆すべき遺構としては戦国時代の全幅６ｍを測る石積側溝付き砂利敷道路があげられ、城下町の基軸となる道の一つと考えられる。

杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点 １号礎石建物址（江戸時代）

⑥横浜市 北仲通一丁目遺跡（幕末～近代、弥生～古墳時代　2014年調査）　裏表紙下段の遺跡

北仲通一丁目遺跡１号切石基礎建物址

２号礎石建物址

遺跡概要

横浜市中区の東京湾に接する砂嘴の上に位置する。横浜商人の渡邊福三郎とその子孫が代々店舗を構えた土地であり、近代の切石基礎や礎石建物址などを検出した。上段の写真は大正関東地震で倒壊したと推定される切石壁である。（本文305頁中山・小林を参照）

１号瓦敷遺構

序　　文

1980（昭和55）年に設立された玉川文化財研究所は、2024（令和６）年をもって創立44年を迎える。

その活動は主に神奈川県を中心に全国におよび、埋蔵文化財の記録保存を目的とする遺跡の発掘調査に従事してきた。

そうした業務の中で蓄積された調査成果に対して、さらなる考古学的検討を加え、さまざまな問題提起を行うことを目的として、2015（平成27）年から「神奈川を掘る」と題してⅠ～Ⅳ号を刊行してきた。当時、研究所代表であった故戸田哲也の厳しい指導のもとに職員一同研鑽を積み、推敲を重ねてきたものである。

この度「神奈川を掘るⅤ」を刊行するにあたり、2022（令和４）年５月に逝去した故戸田哲也の墓前に本書を追悼号として捧げるものとしたい。

これからも職員一丸となって、調査業務と考古学的研究の両立を図って行きたいと考える。

2024（令和６）年５月20日

玉川文化財研究所　相原俊夫

目　　次

麻生　順司　「神奈川の旧石器時代調査」…… 1

戸田哲也の縄文土器編年…… 43
小林　義典・中山　豊・石川　真紀　「縄文草創期の「山居型土器」」…… 44
吉田　浩明・迫　和幸・坪田　弘子・小森　明美　「清水台式土器から勝坂式土器へ」…… 89

中山　豊・香川　達郎　「神奈川の層序区分」
－玉川文化財研究所による地域基本層序（黒色土）の確立－ …… 135

西本　正憲　「小田原城三の丸元蔵跡の五領ヶ台式土器について」
－戸田所長からの宿題－ …… 161

西川　博孝　「縄紋時代中期中葉における西関東出土の東北系鉢形土器について」…… 181

金子　浩昌　「北海道縄文後期遺跡の動物骨製装身具」…… 195

金子　浩昌　「ウスモシリ・匙形骨製品４点について」
－北海道続縄文期匙形骨製品の素材と形態－ ……219

金子　浩昌　「オオカミ棒についての考察」…… 229

中村　若枝　「貝殻を焼く文化」
－縄文と平安　異なる時代の貝ブロックと貝灰をめぐって－…… 235

河合　英夫・伊藤　貴宏　「「土師器盤状坏」の出現と解体」
－相模・南武蔵地域を中心に食膳具の土器組成を考える－ …… 249

河合　英夫・御代　七重　「影向寺址の過去の履歴と第12次調査の成果を受けて」
－影向寺址の伽藍配置と廃絶の年代を考える－ …… 265